

新若戸道路(若戸トンネル)、開通後5年が経過！ ～ 事業評価監視委員会の審議で了承されました ～

平成 24 年 9 月に開通してから今年度で 5 年が経過した新若戸道路(若戸トンネル)。

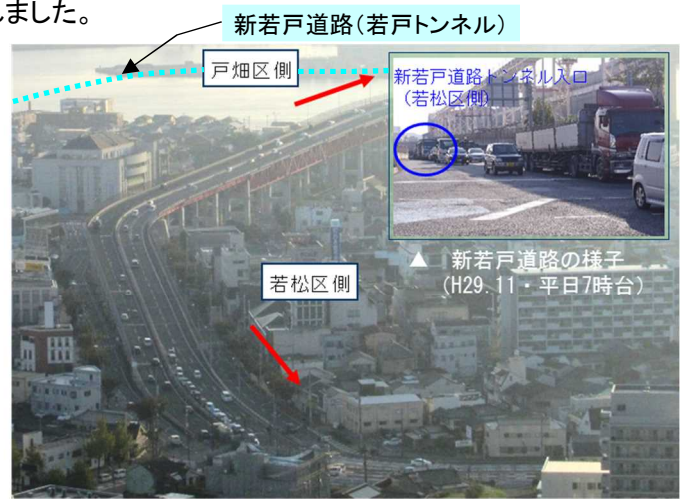
平成 30 年 1 月に「九州地方整備局事業評価監視委員会」で事業評価の審議を受け、了承されました。

国土交通省では、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、個別の公共事業について、新規事業採択時評価、再評価及び事後評価を実施しています。このうち、九州地方整備局では、再評価及び事後評価について、学識経験者等の第三者から構成される「九州地方整備局事業評価監視委員会」が設置されており、評価対象事業の審議がおこなわれることになっています。

新若戸道路が整備される以前、若松区と戸畑・小倉・門司区方面を結ぶアクセス手段は若戸大橋が唯一であったことから、若松区中心地域において慢性的な渋滞が発生していました。平成 24 年 9 月の新若戸道路の開通後は、若戸大橋及び周辺道路の渋滞緩和が図られ、円滑な交通が確保されました。



▲ 若戸大橋の様子 (高塔山から) (H23. 11・平日7時台)



▲ 若戸大橋の様子 (高塔山から) (H29. 11・平日7時台)

いつでも ウェルカム！ ～北九州市観光案内ボランティアの皆さんへ出前講座を実施～

平成 30 年 1 月、関門航路事務所と北九州港湾・空港整備事務所で、北九州市観光案内ボランティアのメンバー約 30 名を対象に、合同出前講座を行いました。

当日は、「関門航路の浚渫」と「北九州空港の将来像」および両事務所の事業概要の説明を行いました。

今後、ガイドの皆さんがおこなう観光案内において、関門航路、北九州の港・空港についての情報が少しでもお役に立てば幸いです。当事務所では、随時、出前講座を受け付けていますので、ご要望の際は、まずはお問い合わせください。



出前講座の様子 活発な質疑応答もおこなわれました

動き出したビッグプロジェクト！

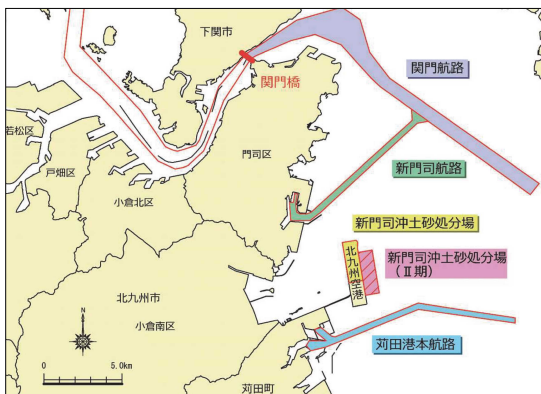
～ 新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)が現地着工～

平成29年10月、北九州空港島の東隣に計画されていた新門司沖土砂処分場(Ⅱ期)事業の現場工事が、ついに動き出しました。

国土交通省九州地方整備局では、近年の船舶大型化による物流の効率化や海上交通の安全性向上、港湾機能の拡充に対応するため、関門航路・新門司航路・苅田港本航路等の整備を行っています。

これらの整備に伴い発生する浚渫土砂は、現在、北九州空港島内にある新門司沖土砂処分場(3工区)及び苅田港新松山土砂処分場で受け入れています。平成30年代中頃には受入れが限界に達する見込みであり、新たな土砂受け入れ場所の確保が課題となっていました。

本事業は、平成29年7月に公有水面埋立承認を取得し、平成29年10月から陸上作業として護岸工事で使う消波ブロックの製作に着手し、海域では、作業に先立ち、磁気探査・潜水探査による海底の危険物有無の調査を実施。平成29年12月に海域作業に着手しました。今後10年余りをかけて、護岸整備をおこなっていく予定です。長期にわたる工事となりますが、事業に対するご理解ご協力のほどよろしくお願いします。



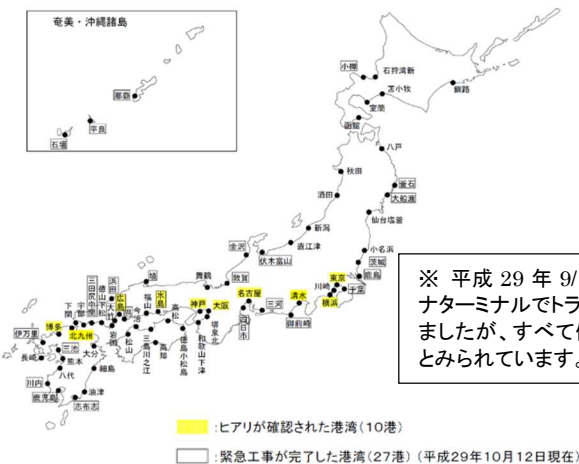
航路整備と新門司沖土砂処分場の位置関係



ヒアリの定着防止緊急対策を実施！

平成29年5月、国内(兵庫県尼崎市)で初めて特定外来生物「ヒアリ」が確認されました。これを受け、ヒアリ生息国・地域との定期航路を有する全国68港湾で、ヒアリの調査・防除が実施することになり、北九州港でも、太刀浦地区・響灘地区のコンテナターミナルにおいて、7月から8月にかけて、ヒアリの侵入・定着防止の緊急工事を実施しました。

(緊急工事内容: 生息環境となり得るコンテナヤードの舗装目地補修、草・堆積土の除去、簡易As舗装)



ヒアリ

体長2.5mm～6.0mm。全体的に赤茶色。腹部は濃い赤色で黒っぽく見える。お尻の毒針で積極的に刺す。

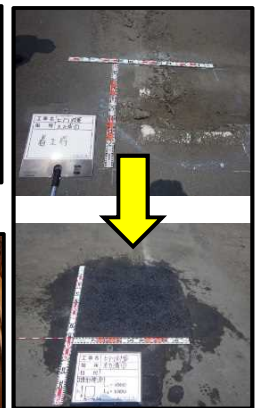
※平成29年9/15、10/2、10/12に太刀浦コンテナターミナルでトラップにかかったヒアリが確認されましたが、すべて働きアリで繁殖の可能性は低いとみられています。



草・堆積土除去



目地補修(クラクソール材注入)



簡易As舗装

【発行】国土交通省 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所

801-0841 北九州市門司区西海岸 1-4-40 Tel: 093-321-4631(代) Fax: 093-322-1007